



西小だより

学校 Web サイト URL <http://nishiurawa.e.saitama-city.ed.jp/>

携帯サイト URL <http://nishiurawa.e.saitama-city.ed.jp/keitai/>

学校教育目標

- ・夢がわき 心もはずむ 西小の子
- ・素直で心豊かな子
- ・進んで学習する子
- ・ねばり強くたくましい子



創意工夫

校長 三村 悟

梅雨空が青空に替わり、照りつける太陽のもと木々の緑が一段と濃く力強くなってきました。

明日から夏休みが始まります。子供にとってワクワクドキドキの39日間です。夏休みを題材にした小説や音楽もたくさんあります。大人になると、夏休みは少しずつ違った姿を見せるようになり、子育てが始まるとハラハラライラの39日間になったりもします。

終業式では、1学期の振り返りとともに「創意工夫」の話をしました。中学生がベビーカーの自動ブレーキを考えて特許を取得したという最近のニュースを紹介しながら、「誰かが喜ぶ顔を思い浮かべながら、知恵を絞ること」の素晴らしさを伝えました。

その時、「中村ブレイス」という会社のことも話しました。この会社は「日本でいちばん大切にしたい会社」(坂本光司:あさ出版)という本で知りました。今から8年も前に出版された本なので御存知の方も多いかもかもしれません。独自の経営を行い、長期にわたって好業績を継続している中小企業を紹介している本です。

中村ブレイスという会社は、この本によると「日本でいちばん辺鄙な場所にある会社」です。場所は島根県の石見銀山の麓。先日行われた参議院選挙で「合区」が行われたことで注目されましたが、それだけ人口減少が進んでいる地域です。この会社が作っているものは義肢装具、つまり、義足や義手、人工肛門など、けがや病気によって体の一部に不自由さを持った人をサポートするための道具です。

今から40年以上前、日本に義肢装具のニーズがほとんどなかった時代に、過疎化が進む故郷に腰を据え、たった一人で創業した会社が、一人一人の依頼者の注文に丁寧に向き合って創意工夫を続けるうちに、世界中から依頼が集まり、日本中から就職希望者が集まる会社になったということです。自分の願いを叶えるために知恵を使う人はたくさんいますが、人の喜びのために知恵を使うことの素晴らしさをこの会社の姿から学びました。

土曜日に本校で行われた、青少年育成西浦和地区会主催の夏レク「夏のこども広場」も、まさに地域の方々が「子供たちを喜ばせたい」と知恵を絞ってくださった「創意工夫」の賜物です。普段の学校生活とは一味違う子供たちの嬉しそうな顔が印象的でした。役員の皆様、本当に有難うございました。

創意工夫とは、誰かが何とかしてくれるのを待つ姿勢から、自分で何とかしてみようと一歩踏み出す姿勢に変わるための言葉です。この夏が、西浦和小学校の子どもたちにとって、一歩踏み出す夏であることを祈ります。そのためには、まず、大人が一歩踏みだしてみましよう!

創意工夫